

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	三ツ堀 清志
主な担当科目	教育課程編成論,教育実習/ⅠⅡ,教科教育法(音楽),教科教育法(音楽)②_A,教科教育法(音楽)②_B,教科教育法(音楽)②_C
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	教科教育法では中学校・高等学校の学習指導要領の考察をはじめ、器楽、創作、及び鑑賞指導のあり方、教材研究の方法、ICTを活用した授業等について、演習を交えた学習を多く実施し修得させる。また教育実習では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について十分身に理解させ、教育実習への意欲を高め、適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を深めさせる。全授業において学生とのコミュニケーションの場をより多く設定する。
2024年の教育に関する自己評価	教科教育法では学習指導要領(中学・高等学校)を理解させるとともに、器楽(ギター・リコーダー実習)、創作、及び鑑賞指導の教材研究の方法、ICTを活用した授業等について、学習指導案の事例を提示し、演習を交えた学修を多く実施し、学生とのコミュニケーションを十分に図りながら理解させることができた。教育実習の授業では、教職の意義、職務内容等について理解させるとともに、教職への意欲を高められるよう授業内容を工夫することができた。また、すべての授業連絡を毎回Teamsを活用した周知を徹底し、授業におけるペーパーレス化に大いに寄与することができた。
2024年のFD活動に関する自己評価	第1回FD合同研修会では、昨年度に引き続き『授業・レッスンにおけるICTを活用について』事例を紹介していただいたことで、より理解が深められ一層充実した授業を展開できるよう意欲が増した。 第2回FD合同研修会では、学部長によるレクチャー『教職員と学生がハッピーに学びあうためのコミュニケーションの技術』について、コミュニケーション技術の理解が一層深められ、今後の参考としていきたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	『授業・レッスンにおけるICTを活用について』、学部・短大の「教科教育法(音楽)」授業において、多くの自治体・学校が採用し運用している『ロイロノート』について、履修学生のID等を取得し、授業内で活用し大きな収穫があった。また、各クラスのTeamsにて連絡・情報提供・課題提出等をフルに活用したことにより、授業資料の紙資源削減(ペーパーレス化)にも大きく貢献できた。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3234 教員名:三ツ堀 清志

1)アンケート結果に対する所見

「教科教育法②、教科教育法(短大)」

アンケート数値としては、学部・短大ともに全体平均と比較して数値が高い。この結果は、教職をめざす学生の意識の高さの表れだと思われる。ただし、全質問の中で Q7「自分はこの授業の予習・復習をしている」については、昨年度同様に全体平均よりも高いが、科目全体の中では一番低い結果となっているのが残念な結果である。

2)要望への対応・改善方策

より一層授業の質的改善を行っていくために、毎回の授業において全員が理解できるよう、丁寧な説明を心がけたい。

今後の対応策として、課題等を提出させる場合には、事前予習の重要性を理解させ、課題に柔軟に対応できるよう指導の工夫に心がけていくとともに、課題提出方法にも工夫していく必要があると実感している。

科目の特質上、対面授業を主として実施していきたいが、今後の情勢を見込んでオンライン授業になった場合にも対応できるよう、今後より一層入念な準備を行う必要がある。

3)今後の課題

①急遽オンライン授業になった場合を見据えて、授業内容、授業方法、学科試験方法について、さらに検討を加えたい。

②常に自身の発する言葉が、学生に正しく伝わり理解できているのが注意していく。

③教員採用候補者選考試験対策として「学修サポート」等の利用をより充実させ、学習支援の機会を提供する。

④アンケートへの回答者数が、年々増加している。

この授業アンケートの意義を授業の中で説明しているが、いまだ 100%にはならない。次年度に向けすべての受講者が回答するよう、さらに働きかけに努力していきたい。

以 上